

認知症サポーター養成講座

と き 平成23年2月19日（土）

ところ 兵庫県民会館 303号室

参加人数 66名

開催趣旨

認知症についての正しい知識を学び、認知症の方や家族を支えるボランティアを養成する。

テーマ

認知症に関する正しい知識と理解を身に付ける

講師

田中 大祐 氏（タツミケアサービス 代表取締役、神戸地域ビジョン委員）

内容

講義内容を抜粋

- ・ 認知症は、85歳以上では4人に1人の割合で発症しており、年をとるほど発症人数が増えているが、全員がなるわけではない。「自然の老化」ではなく「病気」である。
 - ・ 認知症になってしまうと、多彩な認知欠損が出現し、記憶・言語・行為・認識・計画的行動の障害が出てくるために、社会的・職業的能力が著しく低下してしまう。
 - ・ 認知症の代表的な種類は、アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症である。
 - ・ アルツハイマー型認知症の特徴は、早い人は40歳代で発症するが、多くは65歳以降に発症する。脳細胞が少しずつ減っていき、原因は不明である。
 - ・ 脳血管性認知症の特徴は、自発性・意欲が低下し
- 寝たきり状態になりやすく、高血圧症・糖尿病・不整脈などの疾患を合併しやすい。進行予防の治療効果は高い。
 - ・ 認知症は、記憶力や判断力などの機能の低下が必ずあり、性格・意欲・感情など知能以外の領域にも影響を及ぼす。また幻想などの陽性の精神症状を伴うことがある。
 - ・ 認知症ケアでは、「なじみ」の人間関係・場所・行動がキーワードになる。
 - ・ 認知症を進行させないためには、急な環境の変化を避け、今の生活をなるべく続けていくことが重要になってくる。また、本人の役割を奪わないことも大切である。
 - ・ 進行を予防できる手立てはいろいろあり、治療できる認知症もある。



講座の開催をふりかえって

認知症に関する正しい知識と理解を身につけようと、若者から高齢者まで幅広い世代の方々の参加を得ることができました。

講座の中では、地域の介護施設で認知症高齢者の方々に普段から接している講師の経験等も交えながらの話を聞くことができ、参加者にとっては、大変分かりやすいものとなったのではないかと感じました。